

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-140842

(43) 公開日 平成9年(1997)6月3日

(51) Int.Cl. <sup>9</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 3 B 55/00			A 6 3 B 55/00	Z
A 4 5 C 13/26			A 4 5 C 13/26	F

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-326559

(22) 出願日 平成7年(1995)11月20日

(71) 出願人 000005935

美津濃株式会社

大阪府大阪市中央区北浜4丁目1番23号

(72) 発明者 西島 康之助

大阪府大阪市住之江区南港北1丁目12番35号 美津濃株式会社内

(72) 発明者 山口 慎治

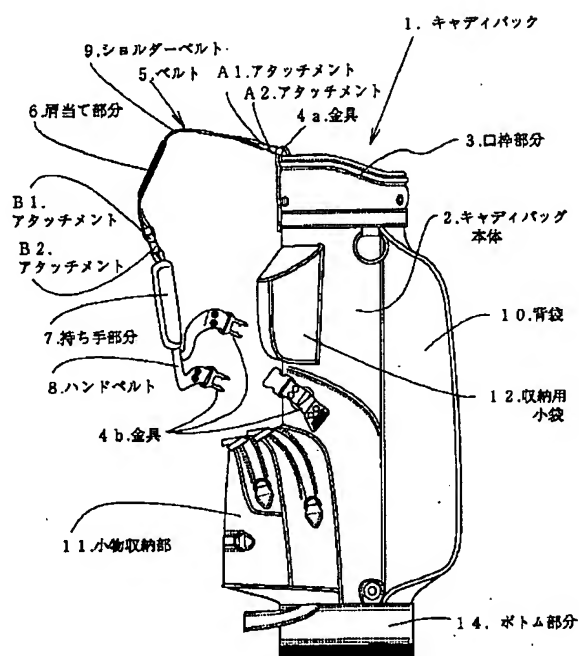
大阪府大阪市住之江区南港北1丁目12番35号 美津濃株式会社内

(54) 【発明の名称】 キャディバッグ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 キャディバッグ本体のショルダーベルトとハンドベルトが兼用させる。

【解決手段】 キャディバッグ本体の口枠部分の前部中央部及び本体中央部の左右側面の3点に金具4a、bを配置し、金具に支持されるショルダーベルトとハンドベルトとから成り、ショルダーベルトには肩当て部分、ハンドベルトには持ち手部分を装着し、ショルダーベルトの上端には本体の口枠部分の前部中央部との間に着脱自在の係止用アタッチメントA1、A2を装着し、下端とハンドベルトの上端との間にアタッチメントB1、B2を装着し、A1、A2及びB1、B2を結合することによりベルトの長さが長くなりショルダーベルトタイプとなり、アタッチメントを開放してショルダーベルトを離脱し、アタッチメントB2をA2に結合することにより、ベルトの長さが短く調節されてハンドベルトタイプとなる構造をもつキャディバッグ。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ゴルフクラブを収納するキャディバッグ本体の口枠部分の前部中央部及びキャディバッグ本体の中央部の左右側面の3点に金具を配置し、該金具で支持されてなるベルトであって、前記ベルトはショルダーベルトとハンドベルトとから成り、前記ショルダーベルトに肩当て部分を装着し、前記ハンドベルトに持ち手部分を装着し、且つ前記ショルダーベルトの上端と前記キャディバッグ本体の口枠部分の前部中央部との間に着脱自在の係止用アタッチメントA1、A2を装着し、前記ショルダーベルトの下端と前記ハンドベルトの上端との間に着脱自在の係止用アタッチメントB1、B2を装着し、該係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2とを結合することにより、前記ショルダーベルトが連結されて、ベルトの長さが長くなりショルダーベルトタイプとして使用でき、且つ前記係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2を解放して、前記ショルダーベルトを離脱し、前記ハンドベルトの係止用アタッチメントB2を前記口枠部分の前部中央部の係止用アタッチメントA2に結合することにより、ベルトの長さが短く調節されてハンドベルトタイプとなるような構造を特徴とするキャディバッグ。

【請求項2】 ゴルフクラブを収納するキャディバッグ本体の背袋を配置した側を背面側とし、小物収納部を配置した側を前面側とし、前記キャディバッグ本体の前面側の口枠部分の中央部及びキャディバッグ本体の前面側の中央部の左右側面の3点に金具を配置し、該金具で支持されてなるベルトであって、前記ベルトはショルダーベルトとハンドベルトとから成り、前記ショルダーベルトに肩当て部分を装着し、前記ハンドベルトに持ち手部分を装着し、且つ前記ショルダーベルトの上端と前記キャディバッグ本体の口枠部分の前部中央部との間に着脱自在の係止用アタッチメントA1、A2を装着し、前記ショルダーベルトの下端と前記ハンドベルトの上端との間に着脱自在の係止用アタッチメントB1、B2を装着し、該係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2とを結合することにより、前記ショルダーベルトが連結されて、ベルトの長さが長くなりショルダーベルトタイプとして使用でき、且つ前記係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2を解放して、前記ショルダーベルトを離脱し、前記ハンドベルトの係止用アタッチメントB2を前記口枠部分の前部中央部の係止用アタッチメントA2に結合することにより、ベルトの長さが短く調節されてハンドベルトタイプとなる構造を特徴とする請求項1記載のキャディバッグ。

【請求項3】 ゴルフクラブを収納するキャディバッグ本体の背袋を配置した側を背面側とし、小物収納部をキャディバッグ本体の中央部からボトム部にかけた部位に

配置した側を前面側とし、前記キャディバッグ本体の前面側の口枠部分の中央部及びキャディバッグ本体の前面側の中央部の左右側面の3点に金具を配置し、該金具で支持されてなるベルトであって、前記ベルトはショルダーベルトとハンドベルトとから成り、前記ショルダーベルトに肩当て部分を装着し、前記ハンドベルトに持ち手部分を装着し、且つ前記ショルダーベルトの上端と前記キャディバッグ本体の口枠部分の前部中央部との間に着脱自在の係止用アタッチメントA1、A2を装着し、前記ショルダーベルトの下端と前記ハンドベルトの上端との間に着脱自在の係止用アタッチメントB1、B2を装着し、該係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2とを結合することにより、前記ショルダーベルトが連結されて、ベルトの長さが長くなりショルダーベルトタイプとして使用でき、且つ前記係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2を解放して、前記ショルダーベルトを離脱し、前記ハンドベルトの係止用アタッチメントB2を前記口枠部分の前部中央部の係止用アタッチメントA2に結合することにより、ベルトの長さが短く調節されてハンドベルトタイプとなると共に、前記キャディバッグ本体の前面側の口枠部分から、キャディバッグ本体の前面側の中央部の左右側面の金具を配置した部位にかけて、収納用小袋を前記小物収納部とは別に形成したことを特徴とする請求項1記載のキャディバッグ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、キャディバッグのショルダーベルト及びハンドベルト及びキャディバッグ本体の改良に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来のキャディバッグではショルダーベルトとハンドルは個々に設けられており、両方ともキャディバッグの前面側に設けられていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、これら従来から公知のキャディバッグにおいては以下のような欠点を有していた。キャディバッグのショルダーベルトは、収納部分の開閉部に長く垂れ下がり、収納部内部の物の出し入れに非常に邪魔になっていた。通常、取り外しができるが、運搬時には、装着する必要がある、着脱が非常に面倒であった。又、従来のキャディバッグでは、前面側にハンドルがすでに設けられているため、前面側の上部に収納部を設けたいと思っても、常にハンドルが邪魔になって、自由自在の場所に収納部を設けることができなかった。又、下部の収納部とハンドルとの間のスペースに無理に小さな収納部を設けたり、前面側には設けられないためにキャディバッグ本体の左右に収納部を設けたりした製品等もあるが、キャディバッグをカートに積んだ際に、使用できるのは前面側の収納部のみであるた

め、ユーザーが使用しやすい収納部を前面側の適宜な場所に、適宜な大きさに自由自在に設けることができるキャディバッグが求められていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するために本発明は、ゴルフクラブを収納するキャディバッグ本体の口枠部分の前部中央部及びキャディバッグ本体の中央部の左右側面の3点に金具を配置し、該金具で支持されてなるベルトであって、前記ベルトはショルダーベルトとハンドベルトとから成り、前記ショルダーベルトに肩当て部分を装着し、前記ハンドベルトに持ち手部分を装着し、且つ前記ショルダーベルトの上端と前記キャディバッグ本体の口枠部分の前部中央部との間に着脱自在の係止用アタッチメントA1、A2を装着し、前記ショルダーベルトの下端と前記ハンドベルトの上端との間に着脱自在の係止用アタッチメントB1、B2を装着し、該係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2とを結合することにより、前記ショルダーベルトが連結されて、ベルトの長さが長くなりショルダーベルトタイプとして使用でき、且つ前記係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2を解放して、前記ショルダーベルトを離脱し、前記ハンドベルトの係止用アタッチメントB2を前記口枠部分の前部中央部の係止用アタッチメントA2に結合することにより、ベルトの長さが短く調節されてハンドベルトタイプとして使用できるようにショルダーベルトとハンドベルトが兼用になるようにした。よって、ゴルフクラブを収納するキャディバッグ本体の背袋を配置した側を背面側とし、小物収納部をキャディバッグ本体の中央部からボトム部にかけての部位に配置した側を前面側とし、前記キャディバッグ本体の前面側の口枠部分から、キャディバッグ本体の前面側の中央部の左右側面の金具を配置した部位にかけて、収納用小袋を形成することも可能である。

【0005】

【作用】本発明のショルダーベルトとハンドベルトが兼用になる構造のキャディバッグは、ハンドル部分にスペースができたため、キャディバッグ本体の前面側に収納用小袋を適宜の大きさに設けることができる。

【0006】

【実施例】本発明に係るキャディバッグを図面に基いて説明する。図1乃至図4に示すように、ゴルフクラブを収納するキャディバッグ本体2の口枠部分3の前部中央部及びキャディバッグ本体2の中央部の左右側面の少なくとも3点に金具4a、4bを配置し、該金具4a、4bで支持されてなるベルト5であって、前記ベルト5はショルダーベルト9とハンドベルト8とから成り、前記ショルダーベルト9に肩当て部分6を装着し、前記ハンドベルト8に持ち手部分7を装着し、且つ前記ショルダーベルト9の上端と前記キャディバッグ本体2の口枠

部分3の前部中央部との間に着脱自在の係止用アタッチメントA1、A2を装着し、前記ショルダーベルト9の下端と前記ハンドベルト8の上端との間に着脱自在の係止用アタッチメントB1、B2を装着し、該係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2とを結合することにより、前記ショルダーベルト9が連結されて、ベルト5の長さが長くなりショルダーベルトタイプ(図1、図3)として使用でき、且つ前記係止用アタッチメントA1、A2および係止用アタッチメントB1、B2を解放して、前記ショルダーベルト9を離脱し、前記ハンドベルト8の係止用アタッチメントB2を前記口枠部分の前部中央部の係止用アタッチメントA2に結合することにより、ベルト5の長さが短く調節されてハンドベルトタイプ(図2、図4)となるような構造を特徴とするキャディバッグ。

【0007】又、前記キャディバッグ本体2の形態として、図1、2に示すようにキャディバッグ本体2の前面側に収納用小袋12及び小物収納部11を設けたり、図3、図4に示すように背面側の背袋10をなくし、キャディバッグ本体2の前面側に収納部13をキャディバッグ本体2の口枠部分3からボトム部分14にかけて一体に形成し、該収納部13の内部には別途に小物入れ等が設けられている。

【0008】又、前記キャディバッグ本体2の金具4a、4bは、固定式のものでも良いし、着脱自在の係止用アタッチメントを使用することも可能である。

【0009】

【発明の効果】ショルダーベルトとハンドベルトが兼用できるようになったために、従来からキャディバッグ本体の前面側に設けられていたハンドル部分がなくなりフリースペースとなり、自由自在に収納部を増やしたり、自由自在な大きさの収納部を形成することができるようになった。又、本発明のショルダーベルトはキャディバッグ本体の口枠部分の前部中央部とハンドベルトとの間で着脱自在の係止用アタッチメントで連結されているため、不要時には離脱して収納部に収納することができるので、収納部にまで長く垂れ下がることもなく、収納部分の開閉部の邪魔にもならない。又、前記の金具は取りはずし可能なため、上部の収納部内部の物の出し入れに邪魔になることもない。又、ショルダーベルトとハンドベルトを兼用させることによってキャディバッグの部品数を少なくすることもできると言った効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るキャディバッグのショルダーベルトタイプを示す側面図である。

【図2】本発明に係るキャディバッグのハンドベルトタイプを示す側面図である。

【図3】本発明に係るキャディバッグのその他の実施例のショルダーベルトタイプを示す側面図である。

5

【図4】本発明に係るキャディバッグのその他の実施例のハンドベルトタイプを示す側面図である。

【図5】本発明に係るキャディバッグのベルトを示す平面図である。

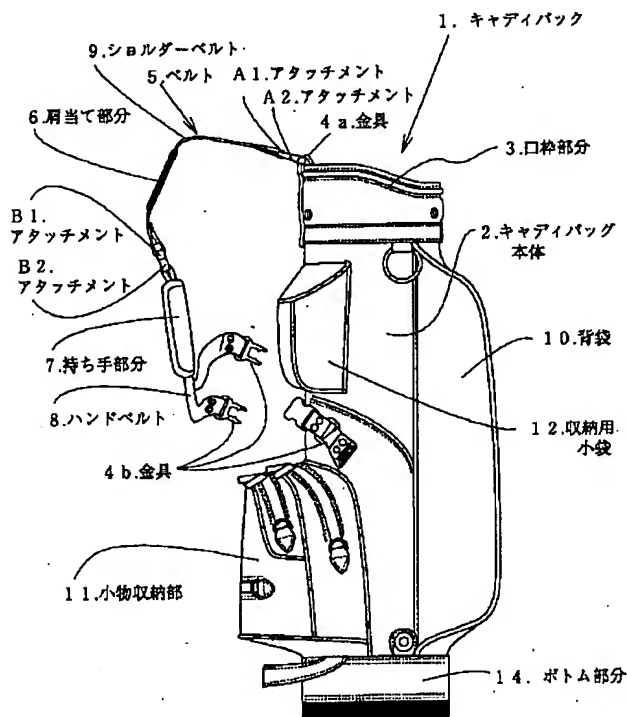
## 【符号の説明】

- 1 キャディバッグ  
2 キャディバッグ本体  
3 口枠部分  
4 a 金具  
A1 アタッチメント  
A2 アタッチメント  
4 b 金具

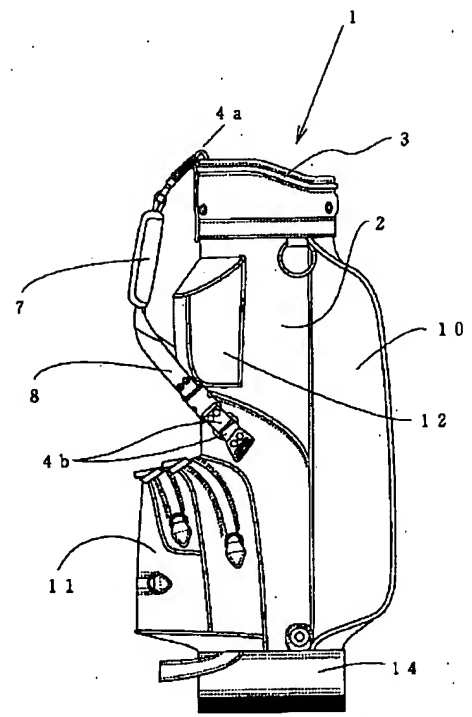
6

- B1 アタッチメント  
B2 アタッチメント  
5 ベルト  
6 肩当て部分  
7 持ち手部分  
8 ハンドベルト  
9 ショルダーベルト  
10 背袋  
11 小物収納部  
12 収納用小袋  
13 収納部  
14 ボトム部分

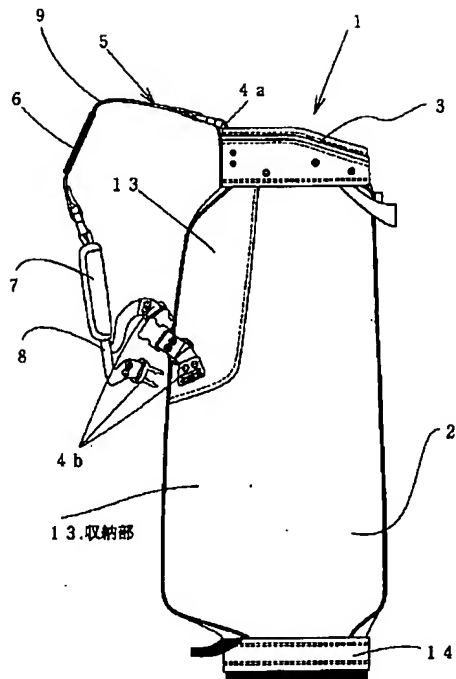
【図1】



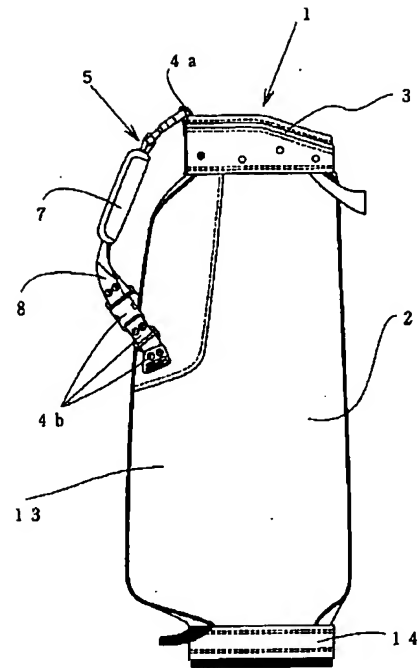
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

